

開催日時：平成28年9月28日（水）13:30～15:30

開催場所：釧路地方合同庁舎5階 第1会議室

釧路湿原自然再生協議会 第2回地域づくり小委員会 議事要旨

- 議事1：第1回地域づくり小委員会のまとめの報告について
事務局から資料1に基づき説明が行われた。

（事務局）

○第1回地域づくり小委員会のまとめの報告

- ①地域づくり小委員会の進め方に関する意見
- ②観光などの地域振興による湿原の賢明な利用に関する意見
- ③地元産業との連携の検討に関する意見
- ④湿原の利用に関するガイドライン・ルールづくりに関する意見
- ⑤産業や暮らしにおける環境や景観への配慮に関する意見

（委員）

・④湿原の利用に関するガイドライン・ルールづくりに関する意見の中で、違う点があったので付け加える。「カヌーは釧路湿原のアクティビティとして人気があるが、自然への負荷も大きい。」については、自分たちや一般の人も含めた中でルールづくりを進めて、自然への負荷を少なくしたいという意見である。また、「カヌーガイドには資格制度がない」については、北海道知事認定のカヌーガイドの資格があるので、その点について訂正をお願いする。

- 議事2：地域づくり小委員会参加団体の取り組み状況の報告について
参加団体から資料2及び資料3に基づき説明が行われた。

（（一社）釧路観光コンベンション協会）

・釧路湿原散策ツアーの紹介

（委員）

・意見、質問なし

（特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ）

・地域作り活動の説明

（委員）

・とても面白そうな活動をされている。中標津町の地域の側はどういった方々が活動に関わっているか？地域の方たちの積極性はどうか？

(特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ)

・関わっているのは、野鳥の関係や植物の関係の方、行政では郷土博物館の方など。地元の自然に興味のある人たちが、もっと積極的になって頂けるような形をとりたい。

(委員)

・タンチョウの餌畑はどれ位の面積を作っているか？どれ位のタンチョウがそれで越冬しているのか？

(特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ)

・手作業でやっているの、30m×100m程度。この場所はなかなかデントコーンが育たない場所なので、実際には足りないため200本ほどデントコーンを頂いているのが現状。だいたい2つがい乃至3つがいがその餌場を利用している。

(委員)

・今後、餌畑の面積を広げていく予定はあるか？

(特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ)

・デントコーンをそのまま放置して、自由に食べられればいいと思っており、トラクターなどを使って広げようとは思っていない。鹿の害やカラスにやられてしまうといったこともある。

(委員)

・中標津町の保養所温泉の冬場の給餌について、もし情報があればお聞かせ願いたい。

(特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ)

・今年は給餌をやめたというような話を聞いている。

■議事3：地域づくり小委員会の当面の検討事項に係るアンケート実施結果について
事務局から「議事4：今後の地域づくり小委員会の進め方について」のアンケート実施結果と併せて大雨による出水状況の説明が行われた。

(事務局)

・平成28年8月24日からの大雨による出水状況について配布資料により説明

(委員)

・台風の影響により、標茶町でも生活道路が冠水したり、牧草が水没したり流されたりという被害があった。釧路川の蛇行を戻して良かったという気持ちも分かるが、上流で泣いている人間もいる。「地域づくり」とは何なのかの原点を考える上でも大きな問題である。

(事務局)

・アンケート実施結果について資料4により概要を説明

【設問事項】

- ①賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について
- ②湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について
- ③今後の議論の進め方について
- ④その他

(委員)

・32 ページの回答 No. 25「ミズゴケの商品化」について補足する。ミズゴケを湿原からほじくり出して売ろうというわけで訳ではなく、現状ではミズゴケはニュージーランドやカナダから購入しており、他の国の湿原に迷惑を掛けているので、そのことについて、いかがなものかというのが主旨である。未利用農地の中のミズゴケを取って人工的に栽培し増やすことで、他の国の湿原の生態系に負荷を与える産業から転換できないかということである。

(委員)

・アンケートを見ると釧路湿原の商品化や観光地化に傾斜していると感じる。湿原は人工的に作られたものではなく、自然の恵みの中で残ってきたものであり、人の手が入らない自然の価値がある。湿原をどう守っていくかということが第一で、その次に観光地はどうあるべきかという話であり、それをきちんと整理しながら話し合いを進めて頂きたい。

(委員)

・これまでの湿原との向かい合い方は、人の暮らしと「VS」であったが、これからは「共生」。自然の恵みを人間の社会が上手に頂けないかというスタンスでいられればよい。湿原と人の暮らしが相容れないものではなく、新しい価値を見いだせる委員会になればよいと思う。

(委員)

・大事なものは程度と内容である。自然をいかに壊さずにどこまで出来るかということが大事であり、観光地化してはだめだということではない。その程度を議論して欲しい。

(委員)

・まさにそのとおりで、程度と、どういう形か、どういう負荷か、といったことを話し合える委員会になればよいと思う。その点については、同じ意見である。

(委員長)

・地域づくり小委員が出来た経緯も、あくまでも自然再生協議会の中での地域づくり小委員会であって、湿原をただ利用して産業振興しようということではないと委員長としても認識している。ラムサール条約でも謳われているワイズユースというのを、どう進めていくのか、観光などの産業振興を通じて湿原の再生や持続的な発展にどう繋げていくかが一番重要である。具体的にどの辺までやろうかというのは、皆さんで議論して頂ければと思う。

(委員)

・釧路湿原の役割としては、知床のような 100%ピュアな自然ということではなく、人間が参加しながら循環の輪を断ち切らないということ。循環型の経済・社会・自然再生にどう繋げていくのかというのが、釧路湿原が国立公園になった最も大きな意義ではないかと考えている。

(委員)

・釧路湿原は国立公園という枠があり、出来ることと出来ないことがある。そこを明確にした上で循環型の観光・産業などを考える必要がある。どこまでが今生きている我々にとって許されるのか、将来、子孫にどのような形で残していけるのかが、我々が決める上で大きなポイントだと思う。

(委員)

・皆さんの意見を聞いて時間的スケールを考えなければいけないと思った。釧路の方も20数年前は活況だったが、その頃と比べるとさびれている気がする。都市計画という立場からすると、釧路の自然をうまく利用して地方財政に少しは貢献するような策を提案していく委員会と考えている。長期的に考えると釧路の方も人口が減っていき、そうすると人と湿原との関わりも減り、自然の摂理に従って100年後、200年後はまた手つかずの自然になっていくのではないか。この場で議論しているのはもう少し短い時間スケールの話だと思うので、そのところをもう少し考えなくてはいけないと思う。

(委員)

・私たちは、幼稚園や小学校を巻き込んで、鮭の稚魚を自分たちの手で育ててMOOの前から毎年放流している。目標としては釧路湿原の中で日本の鮭の原種を確保して、なおかつその鮭を市民が育て、鮭が釧路川に遠慮なく帰ってこられるような環境を設定したい。そのためには、今閉ざされて流れないままになっている釧路川を再生して、市民が手ずから育てた鮭が自然産卵して、その亡きがらをタンチョウやオオワシがつかいむような環境にすること。釧路川の再生は、地域づくりということを考える格好の場になると思うので、この小委員会で議論して頂きたい。

(委員)

・私も蛇行化すればいいとは思っているが、釧路川は過去に釧路地域の住民の生命・財産を守るために直線化したので、蛇行化させるのは難しいのではないかと？

(委員)

・昔とは河川の形状そのものが変わっており、洪水時は水門を閉じればよい。釧路川を求めて鮭が上ってこられるような環境を作ることを前提に議論を進めたい。

(委員)

・自然再生をやってきて川は元に戻ったが、生態系が元に戻ったかという指摘だと思う。水門のゲート操作を的確に行えば住民の生命・財産を守れるのではないかとと思う。

■議事4：今後の地域づくり小委員会の進め方について

(委員)

・委員会の方向性として、一つか二つに絞ってやるよりも、委員から出たアイデアをプロジェクトの種として、各部局でやれることから始めるのが良いと思う。

(委員)

・アンケート結果や議論されていた内容を見ても多岐にわたる意見が出されており、地域づくりということを考える上でテーマになることがたくさんある。これからテーマをいくつかしぼってグループに分かれて議論するという形が考えられるが、その前段階として、情報を出し合って共有したら良いと考える。アンケート結果や課題などを地図上に落とし込んで視覚的に分かりやすくし、情報整理したら良いのではないかな？まだ皆さんと一緒に議論しようという雰囲気や形もとれていないので、グループに分かれて、今現在の活動の現状、課題、やりたいことの3つくらいをテーマに、委員間の交流と情報の共有・整理を目的としたワークショップを行うことを提案する。

(委員)

・その意見に賛成する。これだけの人数では発言が出づらい。ピンポイントで人をアサインした上での仕組みづくりが必要である。釧路川流域は屈斜路湖から釧路市まであり、非常に広い面積なので、情報が地図上に見えるように作ったら良いと思う。釧路湿原はGISデータが整備されているので有効に活用するとよい。

(委員)

・ワーキンググループに分かれて作業を進めるのは良い考えだと思う。その際にグルーピングは網羅的なグループを作って頂きたい。例えば経済や農林業に関するもの、観光に関するものなど色々あると思うので、事務局と委員長に網羅的なグルーピングを作って頂き、人を割り振って頂ければと思う。

(委員長)

・たくさん的人数では議論が深まらないので、グループに分かれる。各グループについては、特定の層に偏らず、幅広く網羅的にバランスのとれたグルーピングでという意見。異論もないようなので、そのような形で進めさせて頂く。この小委員会の具体的な進め方として、「自然再生・ワイズユースを前提にした観光」と「農業・漁業その他産業との連携」と大きく二つのテーマが設定されているので、それをベースにして各委員の希望も取りながらグループ分けをさせて頂き、それぞれのテーマで議論して、その結果を小委員会で共有し、議論するような形で進めたい。大きなテーマやグループ分けについては、事務局と相談の上、提案させて頂き、皆さんと決めていくこととする。